

# 第44回全日本大学男子選手権大会

平成21年8月28日(金)~30日(日) 宮崎県宮崎市/宮崎県総合運動公園他

## 日本体育大 (東京)

# 28年連続 2度目の優勝!



日ソ協記録委員 下村 征二

標記大会は、宮崎県宮崎市・宮崎県総合運動公園、久峰総合公園において全国から予選を勝ち抜いた精鋭32チームが参加して開催された。  
主会場となる宮崎県総合運動公園は、敷地内に様々なスポーツの競技場があり、土日ともなると、あちらこちらでいろんな競技が開催され、毎年春にはプロスポーツのキャンプ地としても利

用されている。  
そのままに宮崎のスポーツの「メッカ」ともいうべき施設を会場に、「大日本一」を争う熱い戦いが繰り広げられた。  
大会は、降雨こそなかったが、晴れていても、すぐに雲が広がってきたりする夏特有の変わりやすい天候と、球場の照明設備が一球場しかなく、2日

目には試合が日没に間に合うかどうかやきもきする場面もあったが、無事全日程を終了することができた。

試合は1回戦こそコールドゲームが9試合と大差のつく試合が目についたが、その後は1点を争う好ゲームも多く、早くから有力校同士が対戦する試合もあり、最後まで目の離せない試合も多かった。

ベスト4には、2回戦で前回大会3位の京都産業大(京都)を破り、好調な打線の活躍で勝ち上がった早稲田大(東京)。準々決勝までの3試合すべて東海勢との対戦を制し、悲願の初優勝を狙う福岡大(福岡)。第31回大会以来13年ぶりのベスト4の同志社大(京都)。前回大会の覇者で連覇を狙う日本体育大(東京)の4チームが勝ち残った。

### ○準決勝

早稲田大

00000000  
000003x 3 0

福岡大

(早) ●久我一北澤

(福) ○坪内一田中(中)

▽向山(福)

(審) P戸高1大里 2和田3郡

(記) 井上

福岡は3回裏に8番・向山の三塁打で一死三塁、5回裏にも2本の安打で二死一・三塁の好機を作ったが得点を奪えず、迎えた6回裏、1番・今泉が四球、2番・麻生のバントヒットで無死一・二塁とし、3番・樺島が送りバント。一死二・三塁とした後、4番・田中(中)のセンター前ヒットで2点を先制。二死後、6番・田中(中)のピッチャー強襲ヒットでもう1点を追加し、早稲田を振り切った。

一方、早稲田は6回表、8番・大嶋9番・松本の連打で無死一・三塁の絶好機を作りながら、後続が三振と2つの内野フライに倒れ、無得点。福岡・坪内を最後まで打ち崩すことができず、完封負けを喫した。

### ○準決勝

日本体育大

0002020  
0000000 0 4

同志社大

(日) ○高橋一 片岡

(同) ●川根一 永見

▽困祝(日) 困祝(日)

▽立石(日)

(審) P松元1岩田 2井上3秋月

(記) 峯村

日体は4回表、二死から相手失策で

### 第44回全日本大学男子選手権大会

1	早稲田	京大	東大	京大	京大	18	5
2	近畿	大阪	大阪	大阪	大阪	0	15
3	京都	産業	産業	産業	産業	12	2
4	盛岡	学	学	学	学	1	6
5	中京	学院	学院	学院	学院	9	0
6	桜城	林	林	林	林	0	9
7	崇徳	西	西	西	西	1	1
8	中京	京	京	京	京	8	4
9	愛媛	媛	媛	媛	媛	1	1
10	愛媛	媛	媛	媛	媛	7	3
11	広島	工	工	工	工	8	0
12	国士	大	大	大	大	0	6
13	愛媛	知	知	知	知	8	2
14	福岡	知	知	知	知	8	1
15	高知	知	知	知	知	3	1
16	日本	福	福	福	福	17	0
17	関東	社	社	社	社	2	0
18	環大	洋	洋	洋	洋	3	1
19	鹿島	鹿	鹿	鹿	鹿	2	4
20	同名	志	志	志	志	11	0
21	富山	山	山	山	山	10	0
22	富山	山	山	山	山	0	0
23	国際	産	産	産	産	1	2
24	熊本	本	本	本	本	3	1
25	中仙	台	台	台	台	14	4
26	仙大	西	西	西	西	4	1
27	関高	経	経	経	経	1	2
28	龍立	谷	谷	谷	谷	13	0
29	立命	館	館	館	館	10	8
30	立命	館	館	館	館	0	7
31	立命	館	館	館	館	0	8
32	立命	館	館	館	館	3	7

走者を出し、6番・祝が5球目を打ち上げ、ファウルフライ。ここで攻撃も終了かと思われたが、これを野手が落球(記録は失策)。その直後の球を逃さず振り切ると打球はセンターオーバーの本塁打となり、2点を先制。その後、6回表にも6番・祝の三塁打等で2点を追加し、勝利を決定づけた。

守っては、エース・高橋が無安打無得点試合(三振8、内野ゴロ8、内野飛1、外野飛4、四球1、球数82球)を達成し、昨年に続き決勝進出を決め、連覇へ「王手」をかけた。

一方、同志社は守備の乱れがすべて得点に絡んだこともあり、攻守にまったく元気がなく、準決勝で敗れ去った。

### ◎決勝

福岡大

00000000  
4000300x  
70

日本体育大

(福) ●坪内一田中(佐)

(日) ○高橋一田中(佐)

▽本伊藤②、石崎(日)

□芳賀(日)

[審] P谷口 1松岡 2田崎 3山村

[記] 阿部

後攻の日本は初回、1番・亀田が前安打で出塁。一死後、相手守備の乱れが続く、幸運な形で先制すると、一死・三塁から5番・伊藤のスリーラ



福岡も悲願の初優勝へ向け、懸命に戦ったが……

ンが飛び出し、この回4点を挙げ、5回裏には、4番・石崎、5番・伊藤の連続本塁打で3点を追加。大きくリードを奪った。

守っては、エース・高橋が相手打線を完全に抑え込み、6回まで一人の走者も許さぬパーフェクトピッチング。

2試合連続の快挙達成かという快投を見せ、最終回に2本の安打を許したものの、福岡打線に最後まで得点を許さず完封。2年連続28度目の優勝を飾った。

福岡は最終回、1番・今泉がこの試合初めての安打を打ち、2番・麻生も続き、一・二塁と粘りをみせたが、後続が三振、内野ゴロ併殺に打ち取られ、万事休す。悲願の初優勝はならなかった。

### 全日本大学男子・女子選手権大会を開催して

宮崎県協会広報委員長 永野 通夫

本県で開催される各種大会の中でも、今年度の最高峰の大会を無事終了することができ、正直なところ、ホッとしている。

男子32チーム、女子24チームの参加で、会場を巨人軍のキャンプ地である宮崎県総合運動公園とソフトバンクホークスのキャンプ地である生目の杜運動公園の2会場に分散して開催であった。

開会式は県総合運動公園の木の花ドームで開催し、全56チームに入場行進をしてもらった。学連の役員の入場行進を見せられた。本県の実行委員会からは入場行進優秀賞を特別賞として準備し、男子の早稲田大、女子の東京女子体育大、日本体育大および早稲田大に開会式の最後に本県産果物を贈呈した。

開会式終了後には、7月に行われた「第8回ワールドゲームズ2009」大学女子日本代表チームのメンバーおよび役員との紹介と表彰が行われ、参加選手や観客から今回の金メダルとともに、今後のますますの活躍を期待して大きな拍手が送られた。

試合は8月28日(金)から30日(日)まで、天候に恵まれ、日程通りに大会運営することができた。

天候が良かったことと、夏休み最後の土・日ということもあり、思ったより多くの観客で賑わった。特に女子の会場ではプログラムの売れ行きが予想以上であった。大学の選手たちのマナーも良く、補助員をしてくれた高校生には大変刺激になり、参考にするところが多かったのではないかと思っている。